

宣言 車 塚

世界の資本主義は既に崩壊の過程に入つた。列国は争ひて深刻なる産業不況の中を苦悶してつた。時独り日本の資本主義は稍安定の傾向を示すか、如く見ゆるが、我々今日の日景気は所謂一九三五六年の「際急局」と目標とする。軍需インフレと日債の暴落に依る輸入インフレとその主体を置くものにして、限りなき「民の犠牲」の上に打ち建てられた銀行の一時的人造景気に過ぎず、断じて全般的対抗非ざるは明白である。明年の海軍縮小議の政府外交を致さずして、「際急非常時の解消」と共に軍需インフレは必然に行き詰り、農村の飢死の病を乞ふ破産産業の深刻に拡大し、「日産産業は全き暴微衰頹して深刻なる不況の大災は吹き荒れざる」被害は最先に労働階級に襲はれる。

この危局を重視して日本労働組合会議は昨冬「産業を労働の統制に關する重大なる建議を政府に呈請し、我々の産業労働の極端を明示する」と共に従来主張したる産業協力の案を奉りては、地方協議會も亦この方針に沿つて全口的運動の目標を積極的に参加した。然るにインフレの巨利は従つて資本家階級に独占され、労働階級はインフレの余惠を皆奪はれた。労働賃金は最近漸騰して、その旅行とあるが、此は直に労働階級が家庭生活と其の健康を侵すに依る。犠牲に供したる産業夜業等の「個別」労働強化の結果としてインフレに依る物價の暴騰と相殺すれば却つて労働階級の實質収入は激減されてゐる。而して資本家階級は所謂非常時の名を藉りて之を逆用し、更に労働階級のその犠牲を強制する政策的態度を示してゐる。言ふまでもなく、其の産業協力を産業と労働者の公正なる分配と労働の精神の上の實現せらるるものである。然るに今日資本家階級の態度を見れば、彼等自らも産業協力を精神を疎離しつゝあるは甚だ遺憾である。我々労働階級は「労働協約の強制」「労働協約の自由」を主張し、組織の自由を以て起因する労働階級の健全なる組織と協力を核として非ざるは、我々の「日産産業の健全なる」食糧と平和を招き得ざることを警告し、我等は飽きて「日産産業の」立場から労働階級の「團結権」を要求する。

九州地方協議會は日本労働組合會議並に前年度大會から決議する如く「自策」として我々の産業を労働に統制する其途を實現す。地方的部署に於て、先ず福岡縣の産業を労働に統制する機関の設置に邁進し、加盟団体と協働してその合理的行政経営並に労働組合の平和的建設的責務に主力を注ぎ、以て産業を健全備置し、健康なる労働組合に對する社會的信賴を通じて本組織の健全なる獲得する方針に沿つて強力なる組織を拡大する。更に九州地方協議會と並んで労働立法促進委員會並に日本労働協約部の地方的機関として、我々の労働組合九州協議會を結成し、最困難なる九州の戦線に於て、全口に比類なき労働組合の戦線統一機関として、健康なる労働組合主義の大師を昂揚し、日本労働組合會議締成以來加盟団体の激和親睦統制連絡を遂げ、戦線統一の善戦健闘、能く極力、極力の輕薄なる従軍の流行的思想を運動と克服して九州の戦線より取逐し、全口で幾許も照耀せられ、全口的普及の導因となつた福岡縣の労働懇話會に参加してその賞讃的成功を通じて、我々加盟団体の建設的諸事業の社會的信賴の増大に依つて、只此一途に健康なる労働組合主義の徹底のために全力を傾倒して戦つて来た従軍の方針と踏襲し、進んでインフレの行詰り起る不況の大災を準備して「日産産業を健全なる再興維持を展並に」労働階級の生活擁護のため加盟団体は愈々協力協心、日本労働組合會議の地方機関たる責務の充放とその目的達成に勇往邁進するものである。

茲に第三回年度大會と當り、現下の我等の主張を素直に宣言し、広く全口的同志諸君並に一掃労働大衆の協力を切望する。

昭和九年十一月二十八日

日本労働組合會議九州地方協議會第三回年度大會